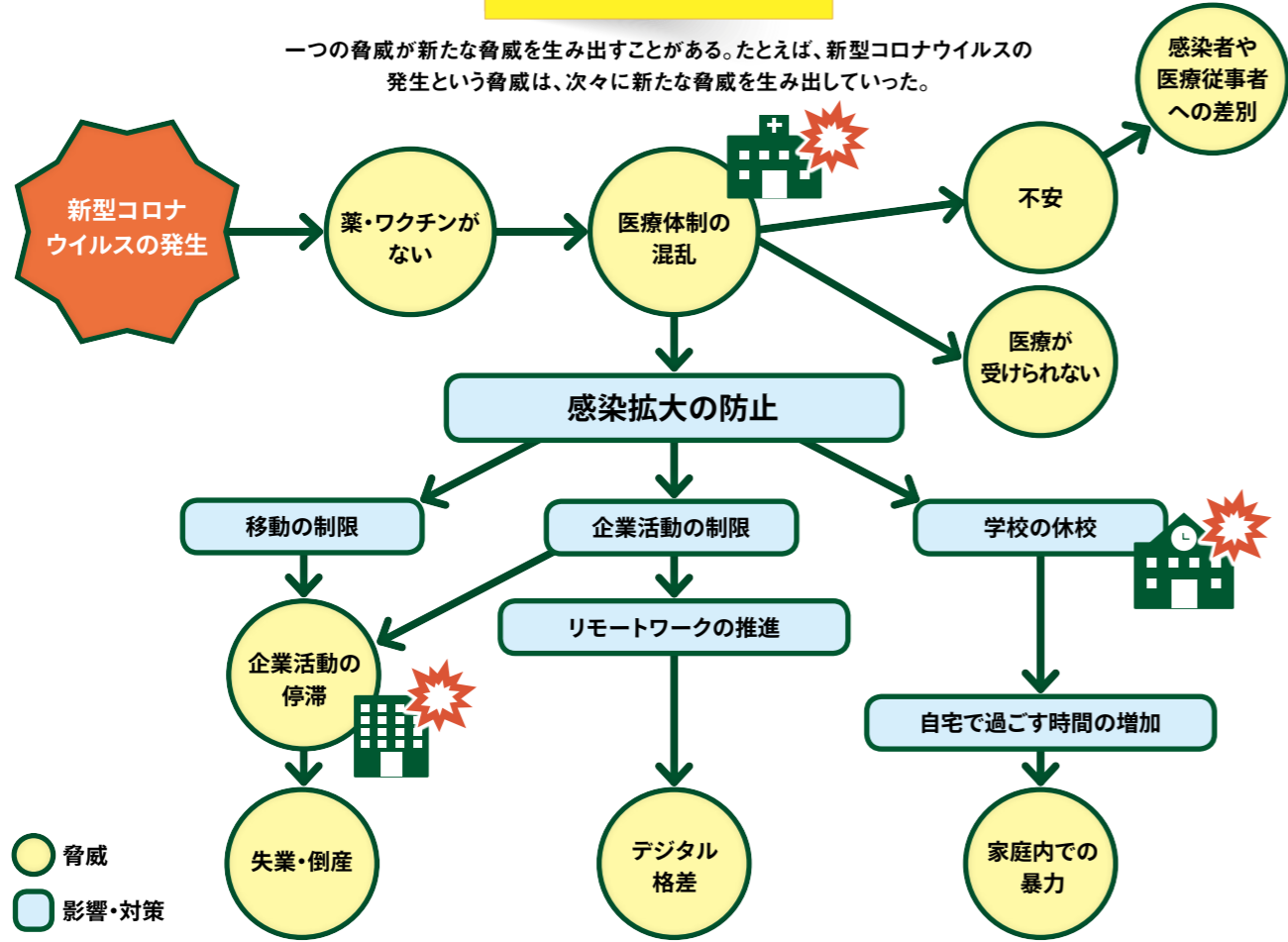


連鎖する脅威

一つの脅威が新たな脅威を生み出すことがある。たとえば、新型コロナウイルスの発生という脅威は、次々に新たな脅威を生み出していった。



JICA緒方貞子平和開発研究所 上席研究員  
武藤亜子(むとうあこ)さん

東京都生まれ。JICA入構後、シリア事務所、ジェンダー平等・貧困削減推進室、ヨルダン事務所勤務などでさまざまな分野の協力を従事。現在は、中東地域の持続的な平和や東アジア地域の人間の安全保障、紛争影響下のジェンダーに基づく暴力をテーマとする研究などを通じて、脆弱な状況を改善する促進/阻害要因を探求し、研究と実務との懸け橋を模索する。



変化・連鎖する脅威に備える

人々の生命、生活、尊厳への脅威は近年、ますます多様化している。ひとつの脅威が新たな脅威を生み出したり、すでにある脅威が時代とともに変わっていったり……。JICA緒方研究所で平和や「人間の安全保障」について研究する武藤亜子さんが解説する。

時間とともに移り変わる脅威

「人間の安全保障」をおびやかす脅威は時間とともに移り変わります。近年では、脅威が連鎖していくことが注目されています。

脅威が連鎖するというのは、どういうことなのでしょう。たとえば新型コロナウイルスは当初、未知の感染症として多くの人にとって脅威でした。その後、感染拡大を防ぐために国や都市の封鎖や人々の行動制限が行われ、経済活動は大きく停滞。それによって収入の減少や企業の倒産が起こりました。さらに学校の閉鎖は教育現場に混乱をもたらし、家庭で過ごす時間の増加で家庭内暴力が頻発することも……。感染症そのものは保健医療分野の脅威ですが、それが経済や教育、福祉などにも大きな影響を及ぼしています。それが、脅威の連鎖、な

多くの分野で連携が必要

ではこうした脅威に対抗するためには、なにが必要なのでしょう。脅威が連鎖し、移り変わるということは、影響を与える分野が多岐にわたるといえます。そこで、関連する多数の分野の人々が力を合わせて取り組むこと、つまりマルチセクターやマルチアクターの考え方がとても重要になってきます。

のです。

これは新型コロナウイルスにかぎったことではなく、自然災害や貧困、紛争などあらゆる脅威で起こる問題です。

また出現する脅威は時代によって異なります。気候変動による異常気象のように新たな脅威が出てくることもありますし、性別による差別や構造的な貧困による格差のように、これまでは脅威ととらえられていなかったものが、脅威として認識されることもあるのです。

人間の安全保障への脅威

人の生命、生活、尊厳への脅威は三つのシステムで引き起こされる。多くの場合、物理・生命システムでの脅威は、社会システムを介することで人々に影響を及ぼし、さらなる脅威を生んでいく。また、それぞれの脅威のシステムには特定の学問分野が対応しているので、人への脅威を取り除いたり減らしたりするためには、分野横断的な協力が必要となる。



出典：Akihiko Tanaka, "Toward a Theory of Human Security", in Hernandez, C., Kim, E.M., Mine, Y., Ran, X. (Eds.), Human Security and Cross-Border Cooperation in East Asia. Palgrave Macmillan, 2019.

また脅威のもたらす影響は様々ではありません。同じ脅威にさらされても、大きく影響を受ける人もいれば、影響が小さい人もいます。大きなハリケーンが襲ってきたとしても、家が倒壊した人とそうでない人とは、その後の生活に大きな差が生じるといえます。それは家自体のつくりや、立地などにも起因し、さらにはもとの経済格差によるところも大きいのです。

多くの場合、脅威の影響は貧困層や高齢者、女性、子ども、障害のある人など、脆弱なところに大きくもたらされてしまいます。そのためJICAなどが進める国際協力では、脆弱な人々の視点に立った協力を心がけています。たとえば災害被災者に対する協力では、コミュニティ内のリーダーが必要な支援を取りまとめますが、リーダーが男性ばかりでは女性の要望が反映されにくいことが起こります。女性のリーダーがいると女性も要望しやすくなるという考え方を平時から多くの人が理解していると、実際に災害が起きたときに、必要な物資や支援を的確に届けることができるのです。

保護とエンパワメントの組み合わせを  
ただ認識しておきたいのは、人々が脆弱な立場に置かれた原因はその人自身にはないということです。

難民も彼ら・彼女らが脆弱だったから難民になったわけではありません。もともと農民や商人、教員、学生だった人たちが、政治的迫害や武力紛争などで国を追われたとたんに、難民、とひとくくりになされ、脆弱な立場に追いやられてしまっているのです。

脅威にさらされたとき、それを自分の力だけで取り除いたり、減らしたりして、自分を取り巻く状況を変えることはとても難しく、できることには限りがあります。こうした人々を支えるためには、保護とエンパワメント(自分自身の力で前に進むこと)の組み合わせが重要です。脆弱な状況にある人々には、国や自治体など公的機関のしかりとした保護が必要です。さらに一人ひとりの身近にいる家族や血縁の助け合い、地域社会のセーフティネットを活用して、エンパワメントを後押しする支援をできるだけ早期に組み合わせることが、命や暮らしだけではなく尊厳を守ることにつながるのです。

保護とエンパワメントが機能しあう社会をつくり上げ、尊厳が守られる人を増やしていく、そんな取り組みの積み重ねの先に人間の安全保障が実現するのだと考えています。